



平成24年7月10日(火)JAひたちなか東海会館(東海村船場)において、「在宅ケアの基礎講座」を開催しました。第1部として「ある呼吸器外科医がおこなってきた肺がん末期の在宅ケア」(演者；西村嘉裕院長)第2部として、「最期はおうちでくらしたい」(演者；青木万由美看護師長)。この講座は在宅医療、訪問看護などの「在宅ケア」を中心に活動する医療法人、いばらき会が主催し在宅ケアに関わる様々な職種のスタッフの方に少しでも情報を提供し、実際のケアに役立ててもらいたいという主旨で開催するもので、「いばらき診療所ひたち」「いばらき診療所みと」の主催に続き「いばらき診療所とうかい」主催の今回で3回目となります。西村先生は今年5月にいばらき診療所とうかいの院長に就任しましたが、病院勤務時代より終末期の訪問診療、在宅での看取りに積極的に取り組んでおり、現在につながる「在宅医療への思い」が伝わる内容だった。一方青木看護師長の講演は、自分の父親の体験談も交えた訪問看護への取り組みや、「今在宅でできること」(可能な事)。「現在は病院の病室とほぼ同様の医療提供が在宅でも可能になっている」などの内容で、在宅医療に触れることの少ない方にとっては、驚きもあったようです。参加人数は約160名で、内訳は医師・看護師・MSW・薬剤師等の医療関係者が66%(内約半数が在宅関係者)、民生委員12%、ケアマネジャー・介護関係者21%、その他1%でした。「このような機会をとおして、医療関係者はもちろん、ケアスタッフの方、地域の方への情報発信や交流を持ち、それが足がかりとなり、各機関の連携強化～在宅ケアの充実に繋がれば、結果的に患者さんのためになるので、今後も積極的に取り組んでいきたい」と西村院長。